

すくすく のびのび いきいき

令和5年5月 第40号

発行：赤穂市教育委員会 ☎0791-43-6857 FAX 0791-43-6895



「地域のあかり」としての学校

教育長 尾上 慶昌

新型コロナウイルス感染症による危機管理が始

まってから、3年以上が経過しましたが、この3年間は、子供達にとって大人が考える以上に貴重な時間でした。赤穂市教育委員会や学校園所としましては、感染症対応等により、ベストな状態で教育を行うことが難しい場面が想定される状況であっても、教育保育に携わる者は未来を担う子供達に寄り添い、教育活動を止めてはいけなと考て対応してまいりました。教育に関わることは、国や県の方針を受け、学校運営協議会・学校園所長や専門職の意見も参考に判断しております。

昨年末から学校の統廃合について、「子供達が心配している」「学校が無くなれば地域が衰退する」「自治会や校区の再編が心配」等々の多くの問い合わせがありました。学校統廃合には、多くの誤解があり、小さな学校をなくす理由として使われる「子供のため」はすでに学校統廃合の理由として否定されつつあります。小さい学校のデメリットとされていたことの多くが、実は根拠の無いことであったとされつつあります。統廃合は、学校や地域の要望を無視して、行政主導で行うべきではないこととされ、そもそも適正配置・適正規模に学校の数を再編するのが目的であり、そのための手段として行われます。小さい学校だけが標的にされるのではなく、赤穂市の学校配置を総合的に見直すこ

とが目的であり、南部の学校が廃止になることもありえることです。しかし、学校の統廃合を進めても財政的なメリットはなく、赤穂市にとって将来的には損失が大きくなります。最も影響が大きいとされる教職員の人件費は、県費負担教職員で赤穂市が支払ってはいません。仮に適正配置を進めれば、地域社会が衰退してしまうリスクが生じます。自治会や幼保・公民館といった施設も再編される可能性が生じます。

平成27年に文部科学省からの「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」において、行政が一方的に進めず、地域住民の意見を重視することとされました。学校の適正化は、児童生徒の教育条件の改善の観点を中心に据え、学校教育の目的や目標をよりよく実現するために行うべきものであります。赤穂市の小中学校は児童生徒の教育のための施設であるだけでなく、防災、保育、交流拠点等の機能を併せ持ち、地域のコミュニティの核としての性格も有しています。まさに、市内の各学校が、「地域のあかり」として機能している希少な市です。

学校の統廃合について、さまざまな声があることも事実ではあるものの、誤解された意見が多く見受けられます。学校の統廃合については各学校に設置されている学校運営協議会（コミュニティ・スクール）にて検討していくことであり、教育委員会が決定することはありません。

令和5年度

赤穂教育プラン



[赤穂市子育てスローガン]

すくすく（乳児期）

のびのび（幼児期）

いきいき（少年期）

基本理念

“あすの赤穂”をになう こころ豊かで自立する人づくり ～夢と志を育む教育をめざして～

人々が生涯にわたり夢と志をもち、学校教育、歴史や文化、スポーツを通じて個性や能力を発揮し、主体的に活躍できる教育環境の整備と地域コミュニティの構築を推進し、次代をになう自立する人づくりを目指す。

キャリア教育の推進

生涯学習の推進

保育所 幼稚園

小学校 中学校

生涯学習

《学校園所教育の充実》

【小学校・中学校】

- 「確かな学力」を育成するため「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の改善
- 地域とともにある「コミュニティ・スクール」の充実
- 「豊かな心」を育む道徳教育・人権教育の充実
- 一人一人の多様な教育的ニーズに応じた、きめ細かな特別支援教育の充実
- いじめ・不登校等の未然防止、早期発見・早期対応を図る児童生徒理解に基づく生徒指導の充実
- 適切に判断し、命を守り抜く力を育成する防災・安全教育の充実
- 校種間の連携による円滑な接続と系統性を重視した指導の充実
- 「健やかな体」の育成をめざし、健康教育の充実と体力・運動能力の向上
- グローバル化に対応した外国語教育・伝統文化に関する教育の推進
- 情報活用能力の育成に向けた学習活動の推進
- ウィズコロナ・ポストコロナ社会における新たな日常に対応する教育活動の創造

【幼稚園・保育所】

- 「生きる力」の基礎を育む「主体的・対話的で深い学び」を促す教育・保育の創造
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた保育展開と小学校への円滑な接続推進
- 「豊かな感性」「人と関わる力」を育む人権教育の促進
- 一人一人の発達やニーズに応じた支援体制の充実と関係機関との連携推進
- 子育てに関する情報発信や子育て相談等、保護者・地域と共に歩む保育の実施
- 家庭と連携した発達に応じた基本的生活習慣の確立に向けた取組
- 感染症予防に配慮した保育と子どもたちの健やかな成長の保障
- 幼保一体化の推進
- 保育者（保育士、幼稚園教諭）の資質・能力向上のための研修実施
- 子育て世帯の経済的負担軽減のため、3歳児以上の第3子以降に給食副食費を補助

《給食事業の充実と適正運営》

- 安全な作業環境整備及び衛生管理強化のために、施設修繕、大型調理機器整備等を実施
- 給食施設設備の日常点検と薬剤師による定期点検の実施
- 食中毒及び異物混入防止対策として飛翔昆虫対策等を実施し、安全衛生管理を徹底
- 地産地消の推進として赤穂産の米粉を使った米粉パン及び地元食材を使った赤穂産デー・地場産デーを実施
- 警報発令時対応、アレルギー対応、感染症対応等について学校教育課・学校園との連絡調整の強化
- 子育て世帯の経済的負担軽減のため、第3子以降の無償化を継続実施するとともに、幼稚園児及び小・中学生の給食費の一部無償化を実施
- 新学校給食センター整備基本計画に基づく事業推進（用地取得、実施設計外）

《図書館事業の充実と適正運営》

- 図書整備充実のため図書館蔵書を計画的に購入
- 読書活動推進のため歴史文学講座、絵本講座、朗読講座等の実施
- 新着図書案内の発行、話題の本・特集コーナー・ふるさと情報コーナー設置等による図書館情報の提供・発信
- 周辺地区を対象としたブック宅配サービスの実施
- 電子図書館サービス充実のため電子書籍の購入と地域資料の電子書籍化の実施
- 読書通帳による子ども読書活動の推進とブックスタート（絵本との出会い）事業の継続実施
- 東備西播定住自立圏及び播磨圏域連携中枢都市圏域内の連携事業や相互利用の推進
- 図書館施設整備の実施（照明設備改修実施設計外）

《生涯スポーツの普及・振興》

- 市民の健康づくりのため、市民総合体育祭等を開催するとともに、その他協賛事業として各種スポーツ大会を実施
- 忠臣蔵旗少年剣道大会や各種目協会のスポーツ大会等を通じた友好親善都市とのスポーツ交流の実施
- スポーツの日イベントや少年野球・中学野球・高校野球の親善試合などスポーツの一貫指導と健康とスポーツを機軸としたスポーツ先進都市推進事業の実施
- 体育協会やスポーツ少年団、スポーツクラブ21などの組織活性化と関西福祉大学・赤穂高等学校との連携・協力による団体の育成強化
- 忠臣蔵旗少年剣道大会や赤穂義士杯青少年柔道大会など広域大会の実施
- 安全で快適な施設の利用促進と利便性を向上するため、市民総合体育館などのスポーツ施設整備の実施
- スポーツ先進都市の実現に向けた赤穂市スポーツ推進計画に掲げる施策の推進

《地域文化の顕彰・整備》

- 赤穂城跡の二之丸城壁整備及び土地買い上げによる史跡整備の推進
- 獅子舞等の伝統文化の調査・保存の推進
- 民間宅地開発等に伴う発掘調査の実施、調査報告書の刊行、出土遺物の適正管理
- 田淵氏庭園等の指定文化財の保存・整備の推進
- 文化財資料のデジタル化等による文化財資料の充実整備
- 「文化財をたずねて」等の刊行による保存顕彰の推進
- ホームページによる情報発信、文化財保護連絡員活動による普及啓発の実施
- 赤穂城跡、有年遺跡公園、旧坂越浦会所の施設管理と公開の推進
- 有年考古館における企画展等の実施
- 「図説赤穂市史」の編集、市史史料集シリーズの編集・発行による市史等編さん事業の推進
- 忠臣蔵浮世絵データベースの活用促進

《施設・設備の充実 生涯学習の充実》

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 中学校（赤穂西中）の大規模改造事業による教育環境の向上 小中学校の老朽化した施設の適正な管理を行っていくための施設整備を実施 デジタル教材やICT機器を効果的に活用した情報教育の推進 アフタースクール施設整備の実施 文化施設の施設整備と資料の収集（利用環境の快適性向上と適切な維持管理、郷土ゆかりの資料収集） 文化活動の推進 | <p><市民会館関係></p> <ol style="list-style-type: none"> 文化団体の支援や美術展応募者数の増加促進 市民会館施設整備の実施 <p><公民館関係></p> <ol style="list-style-type: none"> 高齢者大学の充実と市民のニーズに対応した魅力ある講座・教室の実施 公民館施設整備の実施 |
|---|---|

PDCAサイクル (plan-do-check-action)

学校園所・家庭・地域の連携協力

人権文化 の創造



「自立」の力を育てる

教育長職務代理人
大河 龍生

新学期がスタートし、新一年生はもちろのこと、進級した子ども達全員が新しい生活に対する期待に、胸を膨らませていることでしょう。

しかし、様々な経験をする中で、楽しいことがある反面、どうしていいかわからずに困ってしまうこともあると思います。

そんな時、先生や上級生、周りの友達に、何に困っているのかをきちんと伝えて助けてもらうことができれば、つまづくことなく学校生活を楽しむことができるでしょう。

「自立」とは、自分の力で何事もやり遂げるという意味に捉えられることが一般的ですが、困った時に周りの人に助言や助けを求め、やるべき事をやり遂げることも「自立」であると思います。子どもに限らず、社会に出てからでも、人を頼ることが必要になる時があります。

子ども達が、幼少期よりこの「自立」の力を身につけ、困難を乗り越えていけるよう、学校・家庭・地域がそれぞれの立場で関わっていきたいものです。



マイナスをプラスに変えて

教育委員
池坂 めぐみ

新聞を読んでもテレビを見ても「コロナ」という言葉を目にしない日は無い生活が始まってから丸3年。やっと扱いも変わり、学校生活なども少しずつ以前の形に戻りつつあります。元に戻る事が良い事もたくさんあると思いますが、制限のある中でも、先の見えない不安を抱えながら、考え工夫し、形を変えていった事もたくさんあったのではないのでしょうか。

それまで当たり前に行っていたこともコロナ禍で考え工夫することでよりよく変えていけた事もあったと思います。困難に立ち向かわなければいけない場面は大なり小なり生きていけば必ずあります。子ども達は今この時、この仲間とする予定だった体験が出来ず、悔しい思いをしたこともたくさんあったでしょう。しかし、この経験は、きっと子ども達の今後の人生において大きな力になると思います。得たものを糧に今後の自分の道を切り開いていってほしいです。



努力と失敗

教育委員
志水 矛

意欲满满でスタートをきった新学期、その気持ちは2ヶ月経った今も持ち続けているのでしょうか。

子どもたちの中には、『いつもより勉強したのにテストが上がらなかった』とか『部活であれだけ練習したのに全然できなかった』とか『ダメだったからしても意味なかったわ』と、失敗したり結果が悪いと自分を卑下してやる気をなくしてしまう子どもがいます。大人もそうですが、失敗は本当に意味がないのでしょうか。

数日間頑張ったからといってそうそう簡単に結果が出るものではありません。失敗をしても、その失敗を糧にして次の力を得て大きく成長する努力の大切さをWBCの日本選手、監督たちは見事に見せてくれました。

努力を重ねると、失敗から自分の足りないものが見え、更に努力を重ねなければ気がすまなくなります。何年もかけて自分のやりたい事を地道に積み上げていくのが本当の努力であり、失敗を恐れず自分を信じて進んでほしいと願います。



知恩報恩 (恩を知って、恩に報いる)

教育委員
井本 学明

「知恩報恩」という言葉があります。

明治23年9月16日夜半にオスマン帝国(現在のトルコ)の軍艦エルトゥールル号が、和歌山県串本町沖で遭難し、587名の犠牲者を出した事件がありました。串本町の住民は総出で救助・救護を行い、69名を助けました。この時の救助活動がトルコの教科書に掲載されて、ほとんどの人々は知っているのです。

その事件から約100年後、イラン・イラク戦争が勃発しました。イランは、48時間後にイラク上空を飛ぶ飛行機を墜落すると発表。イラクにいる外国人は自国派遣の航空機で次々と脱出。日本は救助機を出せず215人の日本人が取り残されてしまいました。窮地に立たされた日本人を救出するため、戦火の空港に飛来したのがトルコの航空機でした。トルコの大使は「トルコは百年前の恩を忘れていない」と語ったといいます。

東日本大震災発生後、真っ先に100億円の支援を行ってくれたのもトルコ。

受けた恩を忘れず、他の人に施すことこそが大切な行いです。